

模範解答冊子 | 3記事の編集例

> 模範解答は教育用の新規編集例で、唯一の正解ではありません。公開は担当者確認後に行ってください。原文は検証用資料であり、この冊子には全面転載しません。

> 本文やワークの「娘」「62歳」などの想定読者は、編集練習のための架空の設定であり、実在の顧客・相談者ではありません。

親の通帳・保険（記事A） | 全員で実習

1. 記事の設計

- ・元URL・公開日：https://kittozutto.jp/2026/08/21/2413/ | 2026年8月21日
- ・元題名：親の通帳や保険、どこにあるか知っていますか？
- ・目的：親と資産額ではなく「必要な書類や契約のありか」を話すきっかけをつくる。
- ・読者：離れて暮らす親の通帳・保険書類の場所が気になり始めた家族。
- ・中心の問い：親が元気なうちに、何をどこまで確認しておけばよいか？

2. 現状の良さと改善理由

原文は、財産を詮索する話ではなく家族の安心のための準備として伝えており、話しかけやすい導入と確認項目が強みです。改善例では、検索した人が最初に知りたい「確認してよい範囲」と「最初の一步」を冒頭で明示します。また、紙の通帳だけでは分からない契約にも触れつつ、暗証番号やパスワードを記録しない線引きを本文に入れます。

3. タイトル案と採否

1. 親の通帳・保険はどこ？元気なうちに確認したい7つのこと（推奨・採用）
2. 親の通帳や保険の場所を、家族で確認するときの話し方
3. 親のもしもに備える書類整理 | まずは「ありか」から

採用理由：題名だけで対象物、行動の時期、本文の7項目が分かり、本文とのずれが少ないためです。検索順位や需要を保証する題名ではありません。

4. 新規編集本文

親の通帳・保険はどこ？元気なうちに確認したい7つのこと

親のお金の情報は、本人と相談しながら、共有できる範囲で書類や契約の保管場所を確認することから始めましょう。最初から資産額や契約内容を聞く必要はありません。

親が元気に暮らしているうちに、「通帳や保険の書類は、どこにあるのだろう」と気になることがあります。お金の話を切り出すことにためらいを感じる方もいるでしょう。目的は財産を調べるのではなく、急な入院などで本人が書類を探しにくいとき、家族が慌てないための準備です。

まず確認したいのは「いくら」より「どこにあるか」

会話の入り口は、「もし書類を探すことになったら、どこを見ればいい？」のような短い質問で十分です。本人が答えたくないことは無理に聞かず、共有したい情報だけを整理します。

次の7つは、家族で話すときの確認例です。

1. 利用している銀行や信用金庫
2. 通帳・キャッシュカード・届出印などを保管している場所
3. 契約している生命保険・損害保険の会社名

4. 保険証券などの書類の保管場所
5. 証券会社や投資に関する口座の有無
6. 自宅以外を含む不動産に関する書類の場所
7. 大切な書類をまとめている棚、金庫、ファイルなど

金額は、最初の一覧に書かなくても構いません。暗証番号・パスワード・認証コードは、この一覧には記録しません。こうした情報の扱いは本人の判断を尊重し、保管方法も本人と相談してください。

紙の書類がないサービスにも目を向ける

通帳や証券が見当たらないからといって、利用している口座や契約がないとは限りません。ネット銀行やネット証券など、スマートフォンやパソコンで確認するサービスもあります。

ここでも、ログイン情報を家族が預かることを急ぐ必要はありません。まずは「利用しているサービスがあるか」「困ったときにどの書類や連絡先を探せばよいか」を、本人が共有できる範囲で確認します。デジタル上に残る情報については、[デジタル終活の記事](#)もあわせてご覧ください。

家族のお金マップは、場所だけでつくる

話した内容は、本人の同意を得て簡単なメモにできます。たとえば「銀行：〇〇銀行」「保険：〇〇生命」「書類：居間の書類棚」のように、ありかを中心に書きます。詳しい金額や契約の判断まで、一度に整理しようとしなくて構いません。

会話が進まないときは

帰省や食事のあとなど、時間に余裕がある場面を選ぶのも一つです。「今すぐ全部教えてほしいわけではない」「本人が決めてよい」と伝え、話しやすくなることがあります。結論を急がず、次に話す日を決めるだけでも前進です。

もしもの前に、家族で話すきっかけを

書類や契約のありかを共有しておくことは、本人の暮らし方を尊重しながら、いざというときの「どこから探そう」を減らす準備になります。何を共有するかは、親御さん自身が決めることです。

家族で整理する順番や、これからの暮らしとお金の考え方を話したいときは、[お問い合わせ](#)からご相談ください。

5. 修正意図 / 書かなかった情報

- ・修正意図：冒頭で読者の疑問に答え、7項目を行動できる形に並べ、本人の意思と情報管理の注意を本文に置きました。
- ・書かなかった情報：資産額、口座番号、暗証番号、パスワード、家族による口座操作の可否、相続・制度の個別判断、相談実績や効果は書いていません。確認できない事実や個別の法的・金融判断を補わないためです。

6. 関連記事・行動の案内リンクの理由

- ・[デジタル終活の記事](#)：紙の書類がない契約にも目を向ける本文の補足として置きます。
- ・[お問い合わせ](#)：家族での整理やライフプランの相談を希望する読者の次の行動です。初回条件や有償サービスの内容は、リンク先で確認してもらいます。

7. 記事の短い説明文の案 (メタディスクリプション) ・ よくある質問

記事の短い説明文の案 (メタディスクリプション)：親の通帳や保険の書類はどこにある？資産額ではなく、まず確認したい7つの「ありか」と、家族で話すときの注意点を紹介します。

よくある質問 1：最初から親の資産額まで聞く必要がありますか？ 最初の話し合いで金額まで確認する必要はありません。まずは本人が共有したい範囲で、書類や契約のありかを確認する方法があります。

よくある質問 2：暗証番号も家族のお金マップに書きますか？ 書きません。暗証番号やパスワード、認証コードは一覧に記録せず、扱いは本人と相談してください。

8. 演習1～演習5記入例と採点

ワーク	記入例
演習1 読者・疑問	読者：離れて暮らす親の書類の場所が気になる娘。問い：何を確認してよいか。検索候補：「親 通帳 どこ」「親 保険証券 保管場所」「親 お金 書類 整理」。確認状況：自社の検索順位・検索数は未確認。
演習2 タイトル	「親の通帳・保険はどこ？元気なうちに確認したい7つのこと」を選ぶ。題名の「7つ」と「元気なうち」が本文にあることを確認する。
演習3 導入・構成	導入の答えは「本人と相談し、共有できる範囲で保管場所を確認する」。大見出しは「いくらよりどこ」「紙の書類がないサービス」「お金マップ」「家族で話すきっかけ」の順にする。「会話が進まないとき」はお金マップ内の小見出しで補足する。スライドS14/S15はこの完全版を短くした説明例であり、配布解答の本文・見出しが正本。
演習4 AI案の点検	採用：7項目を箇条書きにする。修正：「金額も一覧に」を「金額は最初の一覧に書かなくてよい」にする。不採用：「暗証番号も一覧に」を削除し、記録しないと明記する。
演習5 相互レビュー	行動の案内文：「家族で整理する順番や、これからの暮らしとお金の考え方を話したいときは、 お問い合わせ からご相談ください。」本人の意思を尊重する文が行動の案内前にあるかも確認する。

採点項目（各0/1/2点）	この例が2点となる理由
読者と目的	想定読者と「ありかを確認する」という目的が定まっている。
タイトル本文一致	題名の対象・時期・7項目が本文に対応する。
導入の答え	本人と相談して保管場所を確認する、と1段落目で答える。
構成と根拠	確認、紙のないサービス、メモ、会話の順で行動できる。
次の行動	本文に沿う相談への案内と実URLがある。

合計：10点 / 10点。5項目だけを各0・1・2点で採点します。未確認の制度や数字、架空の実績が入った場合は、採点と別に公開を止めて確認します。

60代のライフプラン（記事B） | 比較・応用

1. 記事の設計

- 元URL・公開日：https://kittozutto.jp/2026/06/27/2337/ | 2026年6月27日
- 元題名：あなたは10年後、どんな毎日を過ごしたいですか？
- 目的：退職後のお金を使う不安を、希望と家計整理から考える入口にする。
- 読者：退職後の暮らしを考え始めた60代で、使うことに不安がある方。
- 中心の問い：将来への不安があるとき、どんな順番でライフプランを考え始めればよいか？

2. 現状の良さと改善理由

原文は、退職後の不安を否定せず、「どんな人生を送りたいか」から考える姿勢が伝わります。改善例では対象を60代と明記し、希望→家計の整理→条件の比較→判断という流れを見出しで見せます。必要資金や安全な取崩額を一律に示さず、個別の条件で考える記事にします。

3. タイトル案と採否

- 退職後、お金を使うのが不安な方へ | 60代から考えるライフプラン（推奨・採用）
- 退職後にお金を使う不安を、暮らしの希望から整理する

3. 60代のライフプラン | 貯めるだけではないお金との向き合い方

採用理由：退職後・使う不安・60代・ライフプランという本文の対象と論点を過不足なく示すためです。検索需要や効果を約束するものではありません。

4. 新規編集本文

退職後、お金を使うのが不安な方へ | 60代から考えるライフプラン

退職後のお金を使う不安は、まず希望を書き出し、次に家計を整理して、条件を比べる順番で考えてみましょう。ライフプランは、正解の金額を一つ出すためではなく、希望と家計の状況を照らし合わせ、納得して判断するための過程です。

退職後、「これからのお金で足りるだろうか」と考えると、旅行や住まいの手入れなど、やりたいことにお金を使うのをためらうことがあります。長く働き、貯めることを大切にしてきたからこそ、使う判断が難しく感じられるのかもしれない。

10年後の暮らしを、具体的に思い描く

「10年後、どこで、誰と、どんな時間を過ごしていきたいか」を考えます。旅行、趣味、住まい、家族との時間、続けたい仕事など、答えは人によって異なります。夫婦や家族で考える場合も、まずはそれぞれの希望を出してみると、優先したいことが見えやすくなります。

希望は、金額に直さなくてもよい

最初から「いくら必要か」を決めなくて構いません。「年に一度は遠出をしたい」「住まいを無理なく整えたい」のように、暮らしの言葉で書き出します。後から家計と比べるための材料になります。

今の家計を、分かる範囲で整理する

次に、毎月の収入と支出、預貯金や保険などの状況、これから予定している大きな支出を確認します。年金や退職金を含む収入、医療・介護への備えなども、分かる資料をもとに整理します。

ここで大切なのは、一般的な目安だけで結論を出さないことです。暮らし方、家族構成、住まい、働き方、資産の持ち方によって、考える条件は変わります。分からない項目は空欄のままにして、確認する順番を決めることもできます。

家計を整理する作業は、不安をあおるためのものではありません。今ある情報と、まだ確認していない情報を分けることで、次に誰と何を話すかを考えやすくします。

希望と条件を比べ、選択肢を考える

希望と家計を並べると、「今できること」「時期をずらしたいこと」「もう少し情報を集めたいこと」が見えてきます。たとえば住まいの修繕なら、時期や内容を比較する。旅行なら、頻度や行き先を家計と照らして考える。どれかを我慢するためではなく、優先順位を自分で選ぶための比較です。

一度決めたら終わりではない

ライフプランは、収入や家族の状況、やりたいことが変われば見直せます。最初から完璧な表を作るより、希望と現状を書き出し、次に確認することを一つ決めるほうが続けやすいでしょう。

Kitto Zuttoでは、ヒアリングをもとに専用冊子「Kitto Book」を作成する案内があります。内容や利用条件は、[サービスページ](#)でご確認ください。

これからの暮らしとお金を、希望から整理してみたい方は、[Kitto Zuttoのサービスやお問い合わせ](#)をご覧ください。相談の条件や内容は、公式ページでご確認ください。

5. 修正意図 / 書かなかった情報

- 修正意図：60代の読者を明示し、希望→家計整理→条件比較→見直しの順に、相談前にも考え始められる構成にしました。
- 書かなかった情報：必要資金、年金額、安全な取崩額、投資・保険商品の推奨、相談者の声や成果は書いていません。個別の条件を確認しないまま結論や効果を断定しないためです。

6. 関連記事・行動の案内リンクの理由

- [Kitto Zuttoのサービス](#)：本文で触れた相談の内容・条件を、読者が公式情報で確認する入口です。
- [お問い合わせ](#)：希望と家計を整理する相談を希望する読者の導線です。初回無料とその後の有償サービスは、本文で混同せずリンク先の案内を優先します。

7. 記事の短い説明文の案 (メタディスクリプション) ・ よくある質問

記事の短い説明文の案 (メタディスクリプション)：退職後にお金を使うのが不安な60代の方へ。10年後の希望、今の家計、選択肢の比較から始めるライフプランの考え方を紹介します。

よくある質問 1：ライフプランは、いくらあれば安心かを決めるものですか？ 一律の金額を決めるものではありません。希望と家計、暮らしの条件を比べて判断する過程として使えます。

よくある質問 2：夫婦で希望が違う場合はどうしますか？ まずは各自の希望を書き出し、共通することや優先順位を話す材料にします。

8. 演習1〜演習5記入例と採点

ワーク	記入例
演習1 読者・疑問	読者：退職後、旅行などに使うお金が不安な62歳。問い：何から整理すればよいか。検索候補：「退職後 お金 使う 不安」「60代 ライフプラン」「退職金 使い方 不安」。確認状況：自社の検索順位・検索数は未確認。
演習2 タイトル	固定タイトルを選び、「60代」「使う不安」が本文にあることを確認する。
演習3 導入・構成	導入で「希望→家計整理→条件比較」の順に答える。大見出しを希望・家計・比較・見直しにする。
演習4 AI案の点検	採用：希望を暮らしの言葉で書き出す。修正：「絶対に足りる」とする文を、条件を比べて判断すると直す。不採用：「毎月〇円まで使える」という一律の数値は削除する。
演習5 相互レビュー	行動の案内文：「これからの暮らしとお金を、希望から整理してみたい方は、 Kitto Zuttoのサービス や お問い合わせ をご覧ください。」条件は公式ページで確認できるかを見る。

採点項目 (各0/1/2点)	この例が2点となる理由
読者と目的	60代の場面と、考え始める目的が具体的。
タイトル本文一致	退職後・使う不安・60代・ライフプランに本文が答える。
導入の答え	希望、家計、比較の順番を最初に示す。
構成と根拠	希望から見直しまでを、個別条件で考える流れにする。
次の行動	サービス確認と問い合わせの実URLがある。

合計：10点 / 10点。5項目だけを各0・1・2点で採点します。未確認の数字、制度、実績が入った場合は公開前に削除または事実確認が必要です。

メンバー復帰 (記事C) | 比較・応用

1. 記事の設計

- 元URL・公開日：<https://kittozutto.jp/2026/05/07/2142/> | 2026年5月7日

- ・元題名：メンバーがチームに戻り、新しいKitto Zuttoがスタートしました。
- ・目的：2026年4月のメンバー復帰と新体制の開始を伝え、チーム紹介へ案内する。
- ・読者：Kitto Zuttoの活動や担当者を知りたい方。
- ・中心の問い：2026年4月に何が変わり、メンバーの紹介をどこで確認できるか？

2. 現状の良さと改善理由

原文は、復帰を歓迎し、働くメンバーにも寄り添う姿勢を伝えています。お知らせとしては、事実である「2026年4月に復帰」「新体制でスタート」を早く示し、氏名・復帰理由・成果を補わず、主な案内先をチーム紹介に絞ると読み手が次へ進みやすくなります。

3. タイトル案と採否

1. メンバーが復帰しました | 新体制のKitto Zuttoをご紹介 (推奨・採用)
2. 2026年4月、Kitto Zuttoは新体制でスタートしました
3. Kitto Zuttoのチーム紹介 | メンバー復帰のお知らせ

採用理由：お知らせの内容と、チーム紹介へ進む記事の目的が題名で伝わるためです。公開時点の「最新」など、時期が変わる表現は使いません。

4. 新規編集本文

メンバーが復帰しました | 新体制のKitto Zuttoをご紹介

2026年4月、Kitto Zuttoではメンバーがチームに復帰し、新体制での活動をスタートしました。

私たちは、お客様のこれからの暮らしやライフプランに向き合うと同時に、チームのメンバーもそれぞれの変化とともに働ける場所でありたいと考えています。

変わらず大切にすること

一人ひとりの状況を伺い、これからの選択を一緒に考える姿勢は、これからも変わりません。

チーム紹介をご覧ください

個々のメンバーの紹介や活動内容は、[チーム紹介ページ](#)でご確認ください。

今後ともKitto Zuttoをよろしくお願いいたします。

5. 修正意図 / 書かなかった情報

- ・修正意図：過去のお知らせとして時点を明示し、復帰・新体制・チーム紹介という必要な情報に絞りました。
- ・書かなかった情報：復帰した人数・氏名・休職理由・業務内容・成果、相談予約、検索ワードは書いていません。
原文・公式情報で確認できない内容を補わず、お知らせの目的を広げないためです。

6. 関連記事・行動の案内リンクの理由

- ・[チーム紹介ページ](#)：この記事の主題である新体制を、読者が公式情報で確かめるための自然な次の行動です。

7. 記事の短い説明文の案 (メタディスクリプション)

記事の短い説明文の案 (メタディスクリプション)：2026年4月、Kitto Zuttoはメンバーの復帰を迎え、新体制で活動をスタートしました。チーム紹介ページもご覧ください。

8. 演習1〜演習5記入例と採点

ワーク	記入例
演習1 読者・疑問	読者：Kitto Zuttoの担当者を知りたい人。問い：2026年4月に何が変わり、メンバーの紹介をどこで確認できるか。検索候補は作らない：これはお知らせであり、検索語の有無を評価しないため。
演習2 タイトル	固定タイトルを選び、復帰と新体制を本文1段落目に置く。
演習3 導入・構成	導入に「2026年4月」「復帰」「新体制」を書く。大見出しは姿勢を伝える一つに絞り、事実→姿勢→チーム紹介への案内の順にする。
演習4 AI案の点検	採用：「2026年4月に復帰」という確認済みの時点。修正：「チームが新しくなった」を「新体制で活動をスタート」にする。不採用：「今月復帰」「最新メンバー」は過去記事に使わない。
演習5 相互レビュー	行動の案内文：「個々のメンバーの紹介や活動内容は、 チーム紹介ページ でご確認ください。」相談予約を無理に加えていないか確認する。

採点項目（各0/1/2点）	この例が2点となる理由
読者と目的	復帰による変化とメンバーの確認先を知りたい読者に、告知とリンクで答えている。
タイトル本文一致	復帰と新体制を本文冒頭に置く。
導入の答え	いつ・何が変わったかを最初に伝える。
構成と根拠	確認済みの事実、姿勢、チーム紹介の順で短く伝える。
次の行動	チーム紹介の実URLだけを自然な行動の案内にする。

合計：10点 / 10点。5項目だけを各0・1・2点で採点します。Cでは検索ワードの有無を採点しません。事実追加や未確認のプロフィールがあれば、公開を止めて確認します。

使い方

Aは全員で演習1〜演習5を通して実習します。BとCは応用例として扱い、全文の答えは配布して、同じ5項目で自分の記事を点検してください。5項目は「読者と目的 / タイトル本文一致 / 導入の答え / 構成と根拠 / 次の行動」で、各0・1・2点、計10点です。これはSEO点数や順位予測ではありません。